



図1. 口永良部島産シロモンオオヒゲナガゾウムシ。

島拓夫, 早坂大亮の両博士に厚くお礼を申し上げる。

引用文献

- 金井賢一, 2017. 口永良部島の昆虫 (2016). 鹿児島県博物館研究報告, (36):15-23.
- 鹿児島県環境技術協会, 2001. 生態系多様性地域調査 (口永良部島公園区域拡張調査) 報告書. pp. 66-72, 環境省請負業務, 鹿児島.
- 小島弘昭・森本 桂, 2004. 日本産ゾウムシ上科のオンライン目録とデータベース. 九州大学総合研究博物館研究報告, (2):33-147.
- 佐々木健志・木村正明・河村 太, 2002. コウチュウ目 (鞘翅目). pp. 157-284. In: 東 清二 監修, 屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村 太編, 増補改訂琉球列島産昆虫目録. 沖縄生物学会, 西原.

(飯田恭平 631-8505 奈良市中町 3327-204
近畿大学農学研究科生態系管理理学研究室)

(藤本将也 739-8528 東広島市鏡山 1-4-4
広島大学生物圏科学研究科水圏資源生物学研究室)

【短報】岡山県におけるサメハダマルケシゲンゴロウとオオマルケシゲンゴロウの初記録

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997 (以下サメハダと記す) は稲畑 (2016) により奄美大島と沖縄島, 石垣島, 西表島, 与那国島から国内で初めて記録され, その後本州や小浜島からも記録された (渡部ほか, 2016; 渡部・保科, 2016; 渡部, 2016; 吉村・渡部, 2017; 戸田, 2017). 本州における分布は, 現在のところ石川県, 福井県, 愛知県の記録のみが知られているが, 琉球に分布していることや石川県における過去のマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882 の記録の多くがサメハダであったことから, 本州および四国, 九州の広い範囲での発見が期待されている (渡部, 2016). オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* Sharp, 1882 (以下オオマルケシと記す) は本州西部, 四国, 九州, 南西諸島に分布しており (Biström & Watanabe, 2017), 中国地方においては他に山口県と島根県での記録が知られているが (相本, 2012; 林, 2012), 岡山県からは記録がない (山地, 2012). この度, 筆者らはサメハダとオオマルケシを岡山県で初めて確認したため, 記録する。

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström (図1)

1♀, 倉敷市粒江種松山, 27. VIII. 2017, 末長採集, 渡部保管; 2♀♀, 同所, 9. X. 2017, 末長・山地採集・保管。



図1-2. 岡山県産サメハダマルケシゲンゴロウ (1) とオオマルケシゲンゴロウ (2)。



図3. 生息環境。

オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* Sharp (図2)

2exs., 倉敷市粒江種松山, 9. X. 2017, 末長採集・保管; 1ex., 同所, 30. X. 2017, 渡部採集・保管。

両種とも同じ池の岸边にある植物の根元から得られた(図3)。この池は岸边付近でヒメコウホネやガマ類も確認されたが、過去はヒシ類などの浮葉植物が繁茂するより植生豊かな環境であったそうである(守安敦氏私信)。しかし、現在はブラックバスやウシガエル、スクミリンゴガイなどの外来生物が多く、湖底にはヘドロがたまりつつあり生息環境は悪化の一途を辿っているように見受けられた。

オオマルケシは環境省のレッドリスト2017で準絶滅危惧種に指定されており(環境省自然環境局野生生物課, 2017), サメハダは近年になって国内に分布していることが判明したばかりの種で、レッドリストには掲載されていないが希少な種であると考えられている。両種が岡山県内でこれまで発見されてこなかったのは、適した生息環境が限られ個体数が少ないことのほか、県内低地における小型水生甲虫の調査が進んでいないことも一因であると考えられた。特に岡山県南部低地の湿地環境は年々悪化しているため、小型水生甲虫類の現状把握のための早急な調査が望まれるところである。

末筆ながら、本種の調査にご協力下さった倉敷市の守安敦氏、オオマルケシゲンゴロウの分布記録についてご教示下さったホシザキグリーン財団の林成多博士と神石高原町の秋山美文氏、防府市の相本篤志氏、文献をご恵与下さった名古屋市の戸田尚希氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

相本篤志, 2012. きらら浜自然観察公園内で確認された山口

県初記録の水生昆虫類. 山口県の自然, (72): 33-36.

Biström, O., & K. Watanabe, 2017. A new species of the genus *Hydrovatus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Iriomote Island, Southwestern Japan, with a key to the Japanese species. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7 (1): 5-13.

林 成多, 2012. オオマルケシゲンゴロウを島根県で採集. さやばねニューシリーズ, (5): 34.

稲畑憲明, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46-47.

環境省自然環境局野生生物課, 2017. 報道発表資料 環境省レッドリスト2017の公表について. (<http://www.env.go.jp/press/103881.html>, 2017年11月1日参照)

戸田尚希, 2017. サメハダマルケシゲンゴロウが愛知県にも分布. 佳香蝶, 69 (271): 47-48.

渡部晃平, 2016. 石川県におけるマルケシゲンゴロウ属の分布. さやばねニューシリーズ, (24): 53-56.

渡部晃平・保科英人, 2016. 福井県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの記録と生息地保全に向けた対応. さやばねニューシリーズ, (24): 33-35.

渡部晃平・富沢 章・稲畑憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 15-16.

山地 治, 2012. 岡山県産甲虫目録2012. 岡山県環境保全事業団, 401pp.

吉村優杏・渡部晃平, 2017. 小浜島におけるマルケシゲンゴロウ属2種の初記録. さやばねニューシリーズ, (27): 27-28.

(末長晴輝 710-0807 倉敷市西阿知町 833-8
サンシャイン A205 号室)

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地
石川県ふれあい昆虫館)

(山地 治 701-1221 岡山市北区芳賀 5116-11)

【短報】クロホシシギゾウムシの東京都における採集記録

クロホシシギゾウムシ *Curculio maculanigra* (Roelofs, 1874) は四国, 九州, 沖永良部島, 沖縄本島の西南日本に分布し, 成虫は3~5月, 9~11月にナワシログミから採集されている(森本, 2011; 藤本, 2011). 最近, これまでの分布地からは隔たった千葉県から本種が見つかり, 本州初記録として報告された(西, 2016). 筆者らは, これまで記録のなかった東京都において本種を採集しているので報告する。

2exs., 東京都江戸川区葛西臨海公園, 23. IX. 2015, 松沢採集・保管; 16exs., 18. X. 2017, 松沢・山田採集・保管; 37exs., 9. XI. 2017, 松沢・山田採集・山田保管。

採集場所の葛西臨海公園は江戸川の河口に位置し, 埋立地に作られた大規模な都市公園で, 園内にはピオトープや鳥類園を有し, 多くの植物が植栽されている(清水, 1996)。

本種は10月採集時には, 比較的当たりの良い草地のスweepで, 11月には園内各所に植栽さ